

かがわ機能性食品等開発研究会 第4回情報交換・施設見学会

【開催趣旨】

生理機能に着目した食品や化粧品(以下「機能性食品等」という。)の開発を推進するため、産学官が連携して機能性食品等の開発に資する事業を実施することを目的として、平成25年7月に「かがわ機能性食品等開発研究会」を設立しました。

この度、産総研四国センターの研究者と本研究会会員の皆様との連携推進を図り、また、会員相互の交流を深めることを目的に、産業技術総合研究所四国センターにおいて情報交換及び施設見学会を次のとおり開催します。

【日 時】 平成29年8月22日(火) 13:20～16:40

【会 場】 産総研四国センター 講堂 (〒761-0395 香川県高松市林町2217-14)

【お申込み】 FAX、E-mail(締切:8月14日(月))

【プログラム】

13:20～13:30 開会挨拶

- ・かがわ機能性食品等開発研究会 会長 田村啓敏氏
- ・産総研四国センター 所長 田尾博明

13:30～14:50 研究事例及び支援業務の紹介

- ・「動物細胞とマウスを用いた食品機能性評価および発光培養細胞を用いた細胞機能解析法」
産総研 健康工学研究部門 細胞光シグナル研究グループ 研究グループ長 中島芳浩
- ・「農産物・環境より新たに分離した乳酸菌の機能性食品への応用の可能性」
産総研 健康工学研究部門 生活環境制御研究グループ 主任研究員 堀江祐範
- ・「食品分析フォーラムの紹介」
産総研 四国センター産学官連携推進室 テクニカルスタッフ 内海明博
- ・「産総研の企業支援メニューの紹介」
産総研 四国センター産学官連携推進室 室長 中田正人

14:50～15:00 休憩

15:00～16:00 施設見学

- ・細胞解析実験設備
- ・バイオデバイス工房
- ・講堂前(健康工学部門の概要説明)

16:00～16:30 情報交換

16:30～16:40 閉会挨拶 かがわ機能性食品等開発研究会 副会長 吉原良一氏

【問い合わせ先】

公益財団法人かがわ産業支援財団 地域共同研究部 瓜生義孝様

TEL : 087-869-3440 FAX : 087-869-3441

E-mail : rist@kagawa-isf.jp

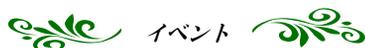
【参加お申込み、プログラム等の詳細はこちらから】

かがわ機能性 見学会

検索

CLICK!!

<http://www.kagawa-isf.jp/topics/h29/20170719-030.pdf>



イベント

第102回「高松5：30クラブ」

【開催趣旨】

地域を元気にする意欲に燃えた人が集まり、肩書き抜きで交流する場、普段なかなか知り合えないような人が一同に集まり、ネットワークの輪を広げる場として「高松5：30クラブ」を開催しています。多くの方々の交流の場となるよう、皆様のお知り合いの方にも広くお声をかけて頂きますようお願いいたします。

【日時】平成29年9月12日(火) 17:30～

【会場】香川大学 オリーブスクエア (〒760-0016 香川県高松市幸町1-1)

【参加費】1,000円

【お申込み】オンライン登録(下記URLより(締切:8月31日(木)))

<http://www.tri-step.or.jp/event/530club.html>

【事務局：7機関】

四国経済連合会、高松商工会議所、香川大学、香川経済同友会、産総研四国センター、四国経済産業局、四国産業・技術振興センター

【問い合わせ先】

一般財団法人 四国産業・技術振興センター

TEL：087-851-7025 FAX：087-851-7027

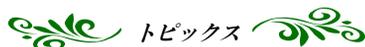
E-mail：step@tri-step.or.jp

【参加お申込み、プログラム等の詳細はこちらから】

高松5：30クラブ

検索 CLICK!!

<http://www.tri-step.or.jp/event/530club.html>



トピックス

産総研の最近の主な研究成果

(平成29年7月のプレス発表より)

<発表・掲載日：2017/07/10>

ガンマ線の光渦を発生させる手法を発見

—新しい同位体分析や非破壊検査技術への応用が期待される—

【ポイント】

- ・高エネルギーのガンマ線渦を生成できる条件を理論計算によって検討
- ・円偏光の高強度レーザーと電子ビームの衝突によりガンマ線渦を生成する手法を発見
- ・新しい同位体分析や非破壊検査技術への応用に期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170710/pr20170710.html

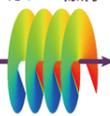
(分析計測標準研究部門)



ガンマ線渦

電子ビーム

円偏光高強度
レーザー



<前ページから>

<発表・掲載日：2017/07/11>

電気探査で水道管周辺の土壌を調査する技術を開発 —路面を傷つけずに水道管の腐食リスクを推定—

【ポイント】

- ・路面から水道管周辺の地盤の比抵抗を計測し、水道管の腐食リスクを推定
- ・路面を掘削せずに短時間で計測可能
- ・急増する老朽水道管更新の優先度の決定に寄与

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170711/pr20170711.html

(地圏資源環境研究部門)



<発表・掲載日：2017/07/12>

電圧書き込み方式磁気メモリーの書き込みエラー率を飛躍的に低減 —超低消費電力の電圧書き込み型不揮発性磁気メモリーの開発を加速—

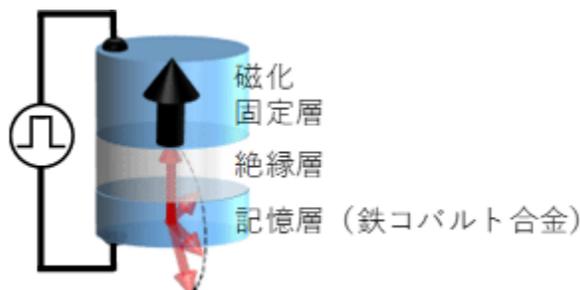
【ポイント】

- ・電圧書き込み方式の不揮発性磁気メモリーの書き込みエラー率を従来の1/200に低減
- ・一回のエラー訂正(ペリファイ)で実用的な書き込みエラー率を実現可能
- ・高信頼性と超低消費電力性を併せ持つ電圧書き込み型磁気メモリーの実現に道

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170712/pr20170712.html

(スピントロニクス研究センター)



<前ページから>

<発表・掲載日：2017/07/14>

直射日光下でのパターン投影による高速形状計測に成功 —外乱光をノイズとして除去する画像処理で実現—

【ポイント】

- ・直射日光など強い外乱光がある環境でも、パターン投影による高速形状計測を実現
- ・通信ノイズ除去手法を撮影システムに適用し、外乱光をノイズとして除去
- ・屋外での運動体計測、炉内の高温発光物体の形状計測、複数視点同時計測などの実現に期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170714/pr20170714.html

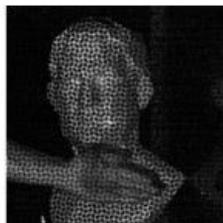
(知能システム研究部門)



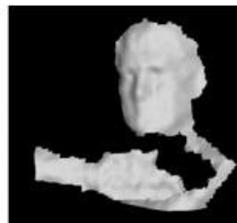
撮影シーン



入力画像



外乱光除去



形状計測結果

<発表・掲載日：2017/07/24>

香川をつくった1億年の歴史 —香川県初の5万分の1地質図幅「観音寺」を刊行—

【ポイント】

- ・香川県としては初となる5万分の1地質図幅「観音寺」を刊行
- ・観音寺地域における1億年間の地史を編さん
- ・土木・建築、防災・減災の基礎資料として地質図が活用されることに期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170724/pr20170724.html

(地質情報研究部門)



<前ページから>

<発表・掲載日：2017/07/25>

燃えるごみの焼却残さから機能性材料を製造 —都市ごみ清掃工場から排出される熔融スラグを高比表面積シリカに変換—

【ポイント】

- ・燃えるごみを焼却した残りかすである熔融スラグから簡単に高比表面積シリカを製造
- ・均一なナノ細孔を持ち、高機能材料として期待されるメソポーラスシリカの合成も実現
- ・得られたシリカは、触媒担体、吸着剤、コーティング剤などさまざまな用途へ展開可能

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170725/pr20170725.html

(触媒化学融合研究センター、化学プロセス研究部門)



<発表・掲載日：2017/07/27>

東京スカイツリー®で大気中二酸化炭素などの温室効果ガス観測をはじめました —世界最大級の都市である東京圏からのCO₂排出量をモニタリング—

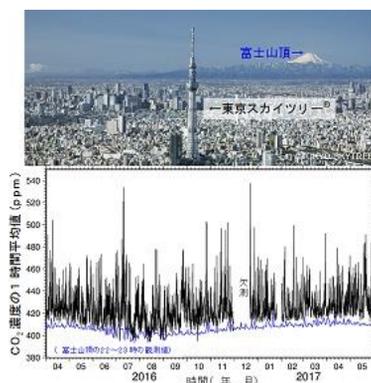
【ポイント】

- ・CO₂排出量を排出源別および燃料別に推定することが可能になると期待
- ・大都市特有のCO₂濃度変動を捉えることに成功
- ・全球観測データを組み合わせることで、温室効果ガスの吸収・排出量の把握精度の向上が期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170727_3/pr20170727_3.html

(環境管理研究部門)



<次ページへ>

<前ページから>

<発表・掲載日：2017/07/27>

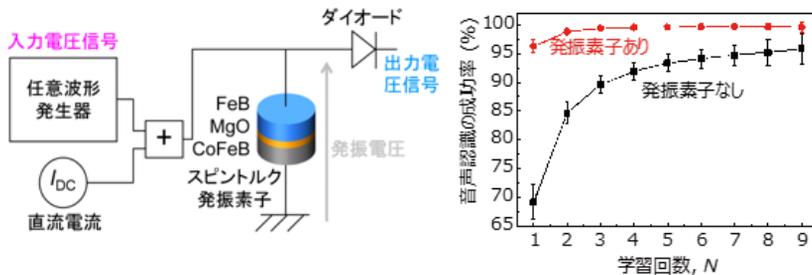
スピントロニクスを用いた人工ニューロンを開発し、音声認識に成功 —スピントルク発振素子を用いてニューロモロフィック・コンピューティングを実現—

【ポイント】

- ・ナノメートルサイズのスピントルク発振素子を用いた人工ニューロンを考案
- ・発振素子を利用することで、99.6%の正答率で音声を認識
- ・人工知能への応用に期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170727_2/pr20170727_2.html
(スピントロニクス研究センター)



<発表・掲載日：2017/07/27>

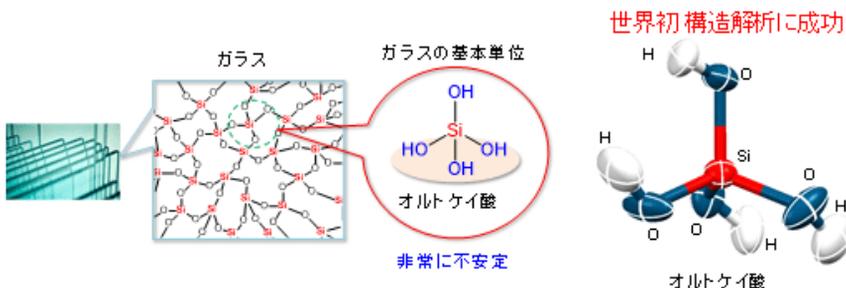
200年にわたる謎に終止符、ガラスの基本単位の構造を決定 —オルトケイ酸を用いた高機能・高性能ケイ素材料の創出に期待—

【ポイント】

- ・ガラスの基本単位であるオルトケイ酸の結晶化に成功し、その構造を決定
- ・高機能・高性能シリコン材料の開発やシリカ製造プロセスの革新を目指す
- ・植物や動物におけるシリカ摂取のメカニズム解明への貢献にも期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170727/pr20170727.html
(触媒化学融合研究センター)



<前ページから>

<発表・掲載日：2017/07/31>

電波の途切れにくい新しい周波数でドローンの制御飛行に初めて成功 —ロボット・ドローン用に新しく開放された周波数169MHz帯の活用に向けて—

【ポイント】

- ・平成28年8月に総務省が新たに制度化した周波数帯の一つ、169MHz帯を使ったドローンの遠隔制御飛行に成功
- ・他のドローンを経た遠隔制御飛行も実証、直接電波が届かない環境での運用も可能に
- ・飛行中に遠隔から他の周波数帯(920MHz帯)と切り替える機能を確認、ドローンの制御用無線がより高信頼に

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170731/pr20170731.html

(知能システム研究部門)

		<table border="1"><tbody><tr><td>中心周波数</td><td>169.22 MHz または 169.90 MHz</td></tr><tr><td>送信出力</td><td>上空 10mW未満 地上 1W未満</td></tr><tr><td>帯域幅</td><td>約50kHz</td></tr><tr><td>無線局免許</td><td>実験試験局</td></tr><tr><td>重量 (ケース・アンテナ含む、 バッテリー含まず)</td><td>340g (920MHz帯モジュール含む)</td></tr><tr><td>周波数切替</td><td>920MHz帯との間で手 動あるいは自動で遠隔 より切替可能</td></tr></tbody></table>	中心周波数	169.22 MHz または 169.90 MHz	送信出力	上空 10mW未満 地上 1W未満	帯域幅	約50kHz	無線局免許	実験試験局	重量 (ケース・アンテナ含む、 バッテリー含まず)	340g (920MHz帯モジュール含む)	周波数切替	920MHz帯との間で手 動あるいは自動で遠隔 より切替可能
中心周波数	169.22 MHz または 169.90 MHz													
送信出力	上空 10mW未満 地上 1W未満													
帯域幅	約50kHz													
無線局免許	実験試験局													
重量 (ケース・アンテナ含む、 バッテリー含まず)	340g (920MHz帯モジュール含む)													
周波数切替	920MHz帯との間で手 動あるいは自動で遠隔 より切替可能													
(a) 地上のポールへの設置状況 (地上制御局)	(b) ドローンへの搭載状況	(c) 主な諸元												